

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その41

文：田崎 敬修

観音様から授かった湯（^{よまた}四岐の湯）

いつの頃から、四岐の村に仲睦まじい老夫婦が暮らしていました。お婆さんは長い間足腰の病で日夜痛みに襲われ歩くこともできず苦しんでいました。お爺さんは治療に八方手を尽くしたのですがどうにもならず、最後は西平の鳥追観音様におすがりするより他に方法はないと心に決めて、21日間、毎日一心に妻の病の治癒祈願のお参りをしました。

やがて、満願の夜、観音菩薩が現れ、「そちの願いを聞きとらすであろう」とお告げがありました。喜び勇んでお爺さんは観音様のお告げに従い、三つ葉の卯木を探し求めたところ、村から800mくらい離れた山ぎわで三つ葉の卯木を見つけました。さらにその根元を掘ってみると、霊泉がこんこんと湧き出てきました。さっそくこの霊泉を沸かしてお婆さんを毎日入浴させると、あれほど苦しんでいた手足の激しい痛みも10日ぐらいでぬぐったようにとれ、元の健康体を取り戻しました。

老夫婦は鳥追観音様にお礼参りをし、このありがたい霊湯で病に苦しんでいる人々を治してあげたいと湯屋を作り、「四岐の湯」として人々の役に立ちました。また、この霊泉の湧き出る上に湯

の神を祀った社（温泉神社、国土地理院の地図にも表記）を建立し、夫婦はもちろん、湯治客も必ず参拝を怠らなかったそうです。四岐の湯はこの話を伝え聞いた町内外の人々が泊りがけで湯治に訪れ、大いに賑わいました。

残念ながら、昭和31年（1956）の大水で湯宿は流されてしまいました。少し下手に宿を再建し、営業を続けましたが、現在、当時の面影は残っていません。この温泉は鉱泉（一般的には水温が25度未満）で、鉄分が多く、皮膚・神経痛・腰痛などに効能があったと言われています。

（参考文献 『西会津町史 第2巻』）



温泉神社

今月の表紙

先日、近所の子どもたちと花火をしたときにカメラをパシャリ。夜の写真撮影は難しい。次は、子どもたちの笑顔もしっかり撮れるように練習しておきます（苦笑）



編集後記

今年の夏も暑いです！この編集後記を書いていた日は、静岡県浜松市で国内最高気温に並ぶ41.1度が観測されました。気象庁のホームページで調べてみたところ、西会津町は1994年に観測された36.9度が歴代最高気温でした。この年は会津の各地で最高気温が観測されており、かなりの猛暑だったようです。皆さんも熱中症には十分注意して、この夏を元気に乗り切りましょう。（秦）